



1980年 アヤメの栽培に取り組む中学生



第1回アヤメフェスティバルの様子



町を挙げて休耕田でアヤメの栽培

- 1976年 龍門淵公園の造成開始
- 1979年 「水郷の町」PR アヤメの栽培開始
- 1983年 龍門淵公園完成
- 1984年 アヤメを町内に配布
- 1985年 第1回アヤメフェスティバルを開催
- 1989年 あやめ公園の構想開始
- 1990年 町を挙げて休耕田にアヤメを植栽 アヤメモチーフのシンボルマークを制定
- 1993年 あやめ公園が完成
- 1995年 アヤメを町花に制定
- 2018年 公園内のアヤメに衰えが見られる
- 2019年 アヤメの復活のために3カ年計画に着手

いづれアヤメかカキツバタ ~アヤメ科のハナショウブ~

「いづれアヤメかカキツバタ」という言葉がありますが、これはどちらも優れていて優劣が決めがたいという意味。言葉通り、アヤメ、カキツバタ、ハナショウブはよく似ていて見分けるのが難しい花です。当時の明科町では、これらのアヤメ科の花をすべて「アヤメ」としていました。特に、水辺にふさわしい花で比較的土壌を選ばないという理由でハナショウブを中心に植栽していました。

地元にある明科高校の生徒たちはあやめ公園の除草作業やアヤメの植栽などのボランティアに協力しています。平成26年には「内閣府社会貢献青少年表彰」を受賞しました。

# 花を咲かせた地域の力 水郷明科あやめ公園

最盛期は県内一ともいわれる150品種約5万株が咲き誇っていたあやめ公園のハナショウブ。連作障害や担い手不足などから、平成10年ごろをピークに花の勢いが衰え、復活が課題となっていました。地域の有志でつくる「あやめ保存会」が3カ年計画で復活に取り組んできた軌跡を、水郷明科の歴史とともに特集します。

## 「水郷の町」PRの象徴

旧明科町では、「水郷の町」にふさわしい花で町を彩ろうと昭和54年ごろからアヤメの栽培に着手しました。

昭和59年には町中にアヤメが咲きそうを願い、アヤメの株を町内に配布。翌年6月の「第1回アヤメフェスティバル」で「アヤメの町づくり宣言」が掲げられて以来、旧明科町では、アヤメを通じたまちづくりに取り組んできました。

## あやめ公園の整備

休耕田や町内での栽培のみでは「アヤメの町」をイメージだけに留めてしまう……。そこで、町は施設整備とイメージ（

株のアヤメを植え、龍門淵公園とあやめ公園周辺で約7500株が植えられました。

## 広大な敷地ゆえの管理の難しさ

あやめ公園の完成から、あやめ保存会が中心となって精力的にアヤメの管理を続け、平成10年ごろには龍門淵公園と併せて約5万株のアヤメが咲き誇り、全国から観光客が訪れる人気の場所となりました。

しかし、平成30年ごろには植栽から40年経つ株の衰えや花の管理に携わる人手不足などで花の勢いがなくなってきました。

ハナショウブは3年に1回の周期で株分けを行い、花を若返らせなければなりません。その作業や土の入れ替えを広大な敷地で計画的に行う

ことは、多くの労力や人手が必要となります。限られた保存会メンバーで行うことはハードルが高いうえに、メンバーの高齢化も進んでいたため、花の復活の方法が課題となっていました。